

## 平成26年度 第3回 四国地方整備局事業評価監視委員会 議事録

1. 日 時 : 平成26年12月16日(火) 13:30~15:30

2. 会 場 : 高松サンポート合同庁舎 13階会議室

3. 出席者

委 員 : 矢田部委員長、岡部委員、高塚委員、中野委員、三木委員、山中委員  
四国地整 : 局長、次長、次長兼総務部長、企画部長、建政部長、河川部長、  
道路部長、港湾空港部長、用地部長、営繕部長 他

4. 議事内容

○再評価(7件)

- ・ 肱川総合水系環境整備事業
- ・ 那賀川総合水系環境整備事業
- ・ 高知海岸直轄海岸保全施設整備事業
- ・ 撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業
- ・ 高松港朝日地区国際物流ターミナル整備事業
- ・ 松山港外港地区国際物流ターミナル整備事業
- ・ 室津港室津地区避難港整備事業

○事後評価(2件)

- ・ 吉野川床上浸水対策特別緊急事業(桑村川)
- ・ 小豆島海上保安署

5. 審議結果等

○再評価対象事業について審議した結果、以下の結論を得た。

- ・ 肱川総合水系環境整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
- ・ 那賀川総合水系環境整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
- ・ 高知海岸直轄海岸保全施設整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
- ・ 撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
- ・ 高松港朝日地区国際物流ターミナル整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
- ・ 松山港外港地区国際物流ターミナル整備事業  
「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

・室津港室津地区避難港整備事業

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

○事後評価対象事業について審議した結果、以下の結論を得た。

・吉野川床上浸水対策特別緊急事業（桑村川）

「今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性はない」とする事業者の判断は「妥当」である。

・小豆島海上保安署

「今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性はない」とする事業者の判断は「妥当」である。

6. 委員からの意見・質問、それらに対する回答等（意見・質問：○ゴシック、回答等：→明朝）

1) 肱川総合水系環境整備事業

○ 野村ダムの水質保全についての便益を算出する方法であるが、下流の住民も含めてのCVMによる算出以外の方法はないのか？

○ 野村ダムの水質保全についてCODは3mg/L、クロロフィルaの低減目標20μg/Lというような、割合に明確な目標設定値がある。それを実現するために、これ以外の方法実施した場合の効果、経費などを比較すれば分かりやすいのでないか。

→ 今回、CVMで便益を算出しているが、代替法など他の算出方法についても検討していきたい。

○ 利用者数の人数はどういうふうに計ったのか、何日間のデータかも分からないし、どれだけのエリアのデータかも分からないので、他のデータとの比較ができない。

→ 算定条件については明確に分かるよう示したい。

○ 対象事業の整備、設置は終わっているが、なぜ再評価なのか。

→ 平成28年度までは事業のモニタリング期間であり、事業は継続しているため、今回再評価案件としている。

2) 高知海岸直轄海岸保全施設整備事業

○ 高潮と津波の被害想定についての考え方や数値的なものはどうなっているか。

→ 高潮は、現在から50年後に侵食された状態で、1/30の確率の高波時に、これだけ浸水するという形でシミュレーションしている。地震、津波については、中央防災会議で出されている2003年東南海・南海地震のモデルを対象に、設計津波高は8.0mとしており、広域沈下等でも堤防高さを確保する対策を行っている。

3) 撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業

○ この事業を整備すれば、津波による浸水被害は無くなるとなっているが、横の撫養川から津波が来るということはないのか。或いは、そちらの方はもう出来ているか。

→ 撫養川から浸水するという事はあり得る状況である。撫養川については、徳島県で整備を進めている。

- 地震で全壊した家屋で、且つ、津波によって浸水を受けた場合、すでに、地震によって被害を受けているため、ダブルカウントになる。既に、地震によって被害を受けているものは除くという形で、純粹に津波対策としての効果としてカウントする方が、より正確な評価になると考える。
- 浸水被害額の算出方法について、今後の参考とさせて頂く。
- コストの増減について地盤改良工法の変更などがあるが、工法選定の検討は、どの様にされているのか。
- 有識者で組織している撫養港海岸整備検討委員会を設置し、地盤改良工法などについて意見を頂いている。

#### 4) 高松港朝日地区国際物流ターミナル整備事業

- 産業機械の輸出の実績は、平成21年に一旦落ち込み、それ以降は順調に回復し、平成24年時点で800台となっている。平成29年以降の需要見込みは、聞き取り調査等から、1,170台という推計を行っているが、産業機械に関する便益は、全体の便益170億円に対し、6億円とそれほど大きな便益ではなく、B/Cの計算にそれほど大きく影響しないので、推計値は平成24年の実績値から現状維持とし、辛めに推計した方がいいと感じたがどうか。
- 平成21年は、リーマンショックの影響を受けて落ち込んだものと考えており、今後の需要見込みについては、企業ヒヤリングを基に設定しており、企業において設備拡張なども予定されていることから今回の設定が妥当と考えている。
- 産業機械の需要見込みについて、平成21年に一旦落ち込んで、それ以降は順調に回復し、平成24年時点で800台、聞き取り調査して平成29年以降は1,170台という形で推計されているが、便益の大きな要因でないため、推計値は現状維持とすべきではないか。
- 推計は企業ヒヤリングを実施し、企業が将来拡張予定もあるため、妥当ではないかと考えている。
- コンテナターミナルが広がることによる便益というのが出ているが、コンテナターミナルを国が施行しているのか。
- 埠頭用地や港湾関連用地を整備することにより、元々のコンテナターミナルで扱っていた貨物や施設を移すことより、コンテナターミナルが拡張されることになる。

#### 5) 吉野川床上浸水対策特別緊急事業（桑村川）

- 内水安全度1/10規模というのは、具体的にどのようなものか。
- 内水安全度1/10は、10年に1回の規模の雨が降った場合でも、床上浸水被害が生じないだけの機能を持ったポンプ場等を整備すること。
- 1/10ということは施設には限界があるということ。それ以上の降雨になると避難が必要ですよというようなりスクコミュニケーションを是非やって頂きたい。浸水エリアの中に学校などもあるので、学校の子どもたちに、ポンプ施設の整備により水に浸かる危険性は随分減ったのだけど、例えば、1時間に50mmの雨が降るとか、1日に300mm

ぐらいの雨が降れば、1mぐらい浸水することになる等ということを伝えて頂けると分かりやすい。特に、1/10とかという表現よりは、1日何mmぐらいの雨など、テレビやニュースで聞き慣れた表現に置き換えて伝えるような、そういうことを心がけて頂きたい。  
→ 学校のみならず、地域の方々にも分かりやすく伝えるよう努めていきたい。

#### 6) 小豆島海上保安署

- 旧護岸を撤去し、埋め立て地に建物を建てているが耐震性確保の工夫はあるか。
- 建物の中あたりに旧護岸が出て来て撤去しているが、建物的には旧護岸を挟んで建物の構造的に別にしてEXP. Jで繋ぐとかではなく、一体で造ったということであるが、それで安全性は確保できているのか。  
→ 杭を施工し、その上に建物を乗せているので、地震により、地盤面だけは若干の沈下はあるかもしれないが、建物の機能としては影響ない。
- 満足度調査をしているが、取り調べ室の使いやすさとか、それ以外の使いやすさに、少し不満が出ているが、改良点とか理由があればお聞きしたい。  
→ 取り調べ室については、若干、数が少ないという意見が出ている。人事異動等による前任地と比較されるところがあると思われる。

以 上